

4 段階評価    4 期待以上    3 ほぼ期待通り    2 やや期待を下回る    1 改善を要する

学校経営ビジョン 「生徒が主体となる学校づくり」の積極的な推進をとおして、「挑戦」「共感」「感謝」の心と「考動」する力の育成を図るとともに、「知・徳・体・食」の調和のとれた活力ある教育活動を推進することにより、学校教育目標の具現化を図り、信頼される学校づくりを推進する。

項目	本年度の重点目標と 目標達成のための手段	具体的な数値目標等	具体的な取組	自己評価		結果の考察・分析及び改善策等
				取組別	総合	
知 育	【重点目標】 確かな学力の向上とキャリア教育の推進 (知育) 【目標達成のための手段・具体的な取組】 1 「わかる・できる」を実感させる授業づくりの推進	○ 「授業改善 4 + 4 のチェックポイント」を基盤とした「ひなたの学び」を意識した授業実践、授業がよく分かる 70% 以上	○ 全国学力学習状況調査やみやぎ学習状況調査の分析を行い、教科指導や学年の指導に生かす。 ○ 問題の傾向や内容に慣れるよう、過去問題に取り組む。 ○ 授業力向上に向けて全職員が授業公開を行い、相互参観の実施するとともに研修会を行った。	3. 2	2. 8	○ 指導教諭 2 名による授業公開ウィークを実施した。また、全職員による相互授業参観ではお互い指導のよさを取り入れる様子が見られ、意見交換を行うことで授業力向上につながった。なかでも複数の教員が各教科で地区の代表として授業公開を行い、積極的に授業を発信している。 ○ 授業での ICT 活用は高まっている。個人や教科で差はあるものの、デジタルドリルの活用、家庭学習、協働的な学びの場面での活用が図られている。 ○ 学びたい度調査において肯定的な回答は、「学校に行くのは楽しい」は約 90%、「将来の夢や目標をもっている」は約 80%、「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある」は 75%、「人の役に立つ人間になりたい」97%と高い数値であった。今後もキャリア教育の視点を含めた授業づくりや「総合的な学習の時間」や「こすもす科」、学校行事の充実を図り、コミュニティの充実や主体性の向上に努めたい。 ○ 地域イベントに生徒が企画運営に参画する機会を設定することができ、地域への貢献意識が高まった。 ○ 英検 IBA(英検)の合格率は 3 年 3 級 44%、2 年 4 級 40%、1 年 5 級 76%となっており学年間や個人間で差があるものの目標数値達成となることができた。今後も学力向上に向けた更なる取組が必要である。 ○ 生徒会主体で立腰学習態度コンクールを定期的に行うことで意識付けにつながった。「メディアコントロール週間」を家庭と連携し実施した。生徒自身がメディア使用時間を記録するようになり、家庭での生活について見直す機会になった。さらに、生徒自身に目標を立てさせて取り組ませたことで、目標を達成しようとする意欲を高めることにつながった。
	2 思考力・判断力・表現力の育成に向けた授業改善	○ 諸学力調査結果の丁寧な分析による手立ての工夫、研究授業の実践、AI 教材やデジタルドリル等、ICT 機器の効果的な活用	○ ICT を利用した授業を状況に応じ積極的に行う。 ○ ロイロノートの研修を実施する。 ○ ICT 推進委員会を定期的実施し、具体的な課題の解決のための協議・検討を行う。また、職員研修を取り入れる。	3. 1		
	3 学びに向かう力を育成するキャリア教育の推進	○ 地域との連携・協働による生徒自らが主体的に取り組む場の設定、体験的な活動の積極的な推進、学びたい度 60% 以上	○ 総合的な学習の時間や学校行事を計画的に実施しながら、外部人材の活用と地域と連携した体験活動の充実を図る。 ○ 必要に応じて関係機関との連携を図る。	3. 0		
	4 各種検定の取得を推進	○ 英検 IBA 合格率 3 年 3 級以上 35%、2 年 4 級以上 40%、1 年 5 級以上 70% 以上	○ 検定試験の重要性についての啓発を行う。	2. 3		
	5 学習環境の整備と学習規律の徹底	○ 立腰、学習徹底、メディアコントロール週間の実施	○ 立腰学習態度コンクールを定期的に行い、表彰することで立腰に対する意識を高める。また、各授業場面での指導の徹底を図る。 ○ 定期テスト期間を利用して「メディアコントロール」を実施し、保護者にも協力を依頼する。	3. 4		
徳 育	【重点目標】 豊かな心の醸成と生徒指導の充実(徳育) 【目標達成のための手段・具体的な取組】 1 生徒一人一人が活躍し、自己存在感や充実感を得られる「居場所づくり」と互いに認め合い、高め合える「絆づくり」の推進	○ 生活アンケートの計画実施、確かな生徒理解に基づく組織的、段階的、継続的な指導、いじめ撲滅、100% 解消、QU 学級満足度 70%、不登校数①割改善・新規 0	○ いじめ不登校対策委員会を毎週行い、学年会で共通理解を図る。SSR 指導員や SC、SSW も出会う。 ○ いじめ等に関するアンケートの実施と教育相談の充実を図る。 ○ 6 月と 12 月に Q-U 検査を行い、7 月の結果から出た対策に基づき、学級経営の改善を図る。12 月の結果から効果的な取組を共有する。 ○ 不登校の生徒や配慮を要する生徒に対しては担任だけに任せず、関係機関との連携を図りながら組織的に対応する。	3. 1	3. 1	○ 毎週、「いじめ・不登校対策委員会」を行い、いじめや不登校の解消に組織的に対応した。校内教育支援センターや SSW や SC、社会福祉協議会も会議に加わることで連携を深め、改善につなげることができた。また、校内教育支援センターの運用が始まったことで学びの多様化につながり、不登校傾向の生徒が SSR に登校することで不登校の改善につながった。 ○ 特別支援委員会を定期的開催し、情報の共有を図り共通実践や支援、保護者との連携に努めた。また職員に対しインクルーシブ教育の研修を実践した。 ○ 人権教育推進校として道徳科や学級活動等を活用した取組や講演会等を実施し、人権意識の高揚に努めた。
	2 特別支援教育の充実と校内支援体制の確立	○ 教育的ニーズの把握、研修会の実施。	○ 校内特別支援委員会を隔週で実施し、学級担任からの情報を共有しながら、全職員へ共通理解と共通実践を行う。	3. 2		
	3 道徳教育及び人権教育推進校としての組織的・計画的な取組の推進	○ 人権教育及び道徳教育に関する研修会の実施。	○ 人権に関わる行事を行うことや定期的に情報発信をしながら、生徒及び保護者への啓発する。	2. 8		

	4 生徒の自主・自立を基本にした、生徒会、ボランティア活動の活性化	○ 生徒が主体的に企画・立案・実行できる活動等の実施、校則検討の継続	○ 行事等において、生徒会を中心とした企画運営を推進し、生徒の自主性や協調性、実践力、自治力を高める。	3. 2		○ 生徒総会等で地域に愛される学校をテーマに話し合い、生徒自らが主体的性を意識するようになった。そのため、地域ボランティアや祭りへの積極的参加につながってきている。
	5 「規律と礼儀」を重んじた学校づくりの推進	○ 凡事徹底	○ 道徳の授業や朝の会・帰りの会などすべての教育活動をとおして、規範意識や礼儀作法等の指導を徹底する。	3. 2		○ 生徒による容儀検査や校則検討委員会の実施により、規範意識の向上につながった。
	6 読書活動の推進	○ 一人年間12冊以上60%	○ 読み聞かせ活動の計画的な実施を図るとともに、等して図書室の更なる利用や、興味を喚起する取組をととして昼の放送や図書だよりを活用する。	3. 0		○ 読書量については、1人年間12冊以上を達成している生徒が学校全体では64%という状況であり、支援員との協力体制の成果が見られた。また、読み聞かせ活動は、計画的に実施することができた。
体育	【重点目標】 体力の向上と健康安全の充実（体育） 【目標達成のための手段・具体的な取組】 1 スクールスポーツプランの計画的継続的な実践と部活動との連携による基礎体力の向上	○ 体カテスト県平均以上の項目30項目。	○ 体育の授業において基礎体力向上のための体づくり運動を実施するとともに、部活動の充実を図る。 ○ 自転車登校及び徒歩による自力登校の呼びかけや、500メートルウォークを推奨し、昼休み時間のボール貸し出しも積極的に行う。	2. 7	2. 9	○ 体育科によるスクールスポーツプランの計画的・継続的な取組により生徒の体力向上を図っており、各学年男女8項目、総計48項目中22項目で県平均以上であった。その中で立幅跳び及びハンドボール投げは全学年で全国・県平均を上回った。一方で、握力や50m走で県平均を越えることができなかったのに対応が必要である。 部活動においては、各種大会で上位の成績を収めている。また、県大会や九州大会でも活躍し、表彰されている
	2 生徒の実態に応じた具体的・効果的な指導や家庭との連携を図った健康教育の充実	○ 虫歯治療率75%以上、肥満傾向10%未満	○ 参観日や学校保健委員会及び家庭教育学級を活用し、家庭への啓発を行う。 ○ 学級担任や部活動顧問と連携を図り虫歯治療率の向上に努める。	3. 0		○ 虫歯指導集会を実施し、虫歯予防の啓発を行った。虫歯治療率は1月末で70%で、前年度の同時期と比較して改善傾向である。今後とも家庭への啓発を行っていく必要がある。
	3 安全教育、防災教育等の充実による安全意識の高揚と危険回避能力の育成	○ 交通事故等の撲滅	○ 安全点検を計画的に実施する。 ○ 各種災害等に応じた避難訓練を実施する。 ○ 各小学校と連携した引渡訓練を実施する。	3. 1		○ 中等度以上の肥満率は6.4%（27名）である。養護教諭を中心に個別指導に当たっている。 ○ 避難訓練の一つとして「生徒の引渡し訓練」を行った。本年度は小学校と合同で行い、交通渋滞が起こりにくい工夫を検討した。保護者の協力もありスムーズに実施できた。 ○ 毎月、安全点検を実施し、危険箇所の修繕に努めている。今年度は学校用務員の方が速やかに対応していただいているため大いに助かっている。
食育	【重点目標】 食育の推進（食育） 【目標達成のための手段・具体的な取組】 1 全職員での給食指導によるマナーの育成と食育の推進	○ 給食残食量1.5%以下、朝食抜きの子生徒ゼロ	○ 全職員による給食指導を通して、マナーの育成や残食ゼロを目指した取組を推進する。 ○ 食育だよりを計画的に発行する。	3. 2	3. 1	○ 残食は6月の調査では1.5%、11月は1.8%であった。今後とも栄養教諭、養護教諭を中心に職員全員が協力して指導や啓発を継続していく。また給食感謝週間では、給食センターの調理の様子や「バランスのよい食事」等について、栄養教諭によるリモートの講習会を行った。
	2 「弁当の日」の効果的な実践と教育活動全体を通じた食に関する指導の充実による感謝や貢献の心の育成	○ 「弁当の日」の充実：意義や取組に係る家庭への理解の促進 すべて1人作った生徒の割合50%	○ 「弁当の日」の設定・実施、および事前指導・事後指導の充実を図り、食事と栄養に関心をもたせるとともに、感謝や貢献の心を育てる。	3. 0		○ 「弁当の日」の取組は、年1回ではあるが、学級担任と栄養教諭で協力しながら計画的に実施している。各家庭によって取組に差はあるが、親子が触れ合う貴重な時間となった。

次年度の方向性についての校長所見	<p>次年度は、これまで以上に、全職員が『チーム小林中』としての意識を高め、生徒一人一人のよりよい将来を見据えた「知・徳・体・食」の調和のとれた成長を目指して、学校・家庭・地域がより一層連携・協働しながら様々な教育活動に取り組む。特に、「確かな学力の向上」及び「不登校傾向及び不登校生徒の減少」を重点課題として、学校の教育目標の具現化を図っていききたい。そのために、「生徒の主体性」の更なる向上に努めていききたい。また、ICT機器の効果的な活用をはじめとする個別最適な学びの実現と多様な学びの場の確保に努めるとともに、キャリア教育・特別支援教育の充実を図っていく。さらには、「働き方改革」を一層推進することで、生徒及び教職員の生き生きとした姿があふれる小林中学校にしていききたい。</p>
------------------	--